

令和元年度病虫害発生予察指導情報

－秋期の長雨、台風等により注意が必要な農作物の病害－

令和元年9月5日
鳥取県病虫害防除所

1 情報の内容

8月下旬以降、不安定な天候が続いており、今後も当面の間、秋雨前線や台風等の影響が続くと予想されている。園芸作物を中心に農作物の病害発生が懸念されるため、以下のとおり適切な防除対策を講じる。

2 気象情報

8月29日発表の気象1か月予報によると、9月は平年に比べ晴れの日が少ないことが予想されている。また、現在、台風が発生しており、今後の影響が懸念される。

3 発生に注意が必要な病害と防除対策

[果樹]

(1) ナシ黒星病

本病は秋期の降雨により感染量が増加し、越冬菌密度が高まる。収穫後、定期防除を速やかに行うとともに、発生が多い園では、10～11月に追加防除を2～3回行う。



写真1 ナシ黒星病（秋型病斑）

(2) カキ炭疽病

本病は風雨により被害が拡大する。9月上旬に定期防除を行うとともに、発生が多い園では、収穫前日数に注意して追加防除を行う。



写真2 カキ炭疽病

[野菜]

(3) ブロッコリー黒すす病

本病は多湿条件で発病が助長され、台風等の風雨により発生が拡大する。苗で発生した場合は、速やかに防除を行うとともに発病株を除去する。定植後は、発病の有無にかかわらず、防除暦に従って予防的な薬剤散布を心がける。



写真3 ブロッコリー黒すす病（苗）

(4) ネギ白絹病・軟腐病・萎凋病

これらの病害は高温多湿条件で発生が助長されるため、排水対策を徹底するとともに、発病株の除去や定期的な薬剤散布を行う。



写真4 ネギ白絹病

(5) トマトすすかび病・葉かび病

両病害ともに多湿条件で発病が助長される。定期的な観察と薬剤散布を行い、施設内のまん延を防ぐ。



写真5 トマトすすかび病

(6) ナガイモ炭疽病

本病は多湿条件により発病が増加する。茎葉が繁茂して薬剤がかかりにくいので、丁寧に薬剤を散布する。



写真6 ナガイモ炭疽病

(7) アスパラガス斑点病、褐斑病

本病は多湿条件で発病が増加する。排水対策や通風をよくするために下枝を除去するなど耕種的な対策を行うとともに、定期的に薬剤を散布する。



写真7 アスパラガス褐斑病

矢印は多発している区画